

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピー相模大野ジョイモアーズ教室		
○保護者評価実施期間	2025年 7月 25日		～ 2025年 8月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2025年 7月 19日		～ 2025年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 8月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者さまのニーズやお子さまの様子に合わせて利用の仕方 やプログラムなどを柔軟に対応出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> 日々のフィードバックの中で、お子さまの様子を密に聞き取るようにしている。 年度初めや長期休み明け、行事の前後等気持ちが不安定になりやすい時期は、プログラムの内容を検討したり、集団支援と個別支援のバランスを見直したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談希望の用紙をモニタールームに設置する等、気軽に発信してもらえるようにしていく。 昨年度の様子等を参考に、気持ちが落ち着かない時期等を予想して事前に保護者さまやお子さまと話をすることで、困り感が出る前に対策出来るようにする。
2	園との連携を積極的に実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ハッピーや自宅以外での様子を保護者さまにお伺いするようにしている。 実際に園に訪問する連携、電話での情報共有、保護者さまを通しての情報共有等ご希望や園の都合に応じて適切な方法で連携を実施出来るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に情報共有が出来るようにしていく。 園連携で得た情報をまとめて、未就園の利用者さまへの情報収集とし、相談援助に努める。
3	有資格者がいることで専門的な視点で療育を提供することが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者さまから困りごとをお伺いした際に、指導員全体で共有することで、多角的な視点で要因や対応方法を考えられるようにしている。 職員それぞれの得意分野を職員同士で把握することで、必要な情報を保護者さまにお伝え出来るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での研修を実施することで、一人一人の専門性を高められるようにしていく。 相談内容によって、対応する職員を臨機応変に変えることでより友好的な面談が出来るようにする。 それぞれの得意分野を生かした掲示物を作成・提示することで、保護者さまに発信していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子育てについての質問に説得力を持って返答することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> 子育て経験のある指導員がいない。 トイレや水道が事業所内になく、支援時間も45分と短い時間なので、実際の家での困りごとが事業所内で見えづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りをより丁寧に行い、職員全員で共有検討し、経験からの話は難しいが、それぞれの知識や療育の視点で話をしていく。 他教室の経験のある職員に聞く。 指導員が子育ての勉強会等に参加する。
2	放課後等デイサービスがあることを活かせていない	<ul style="list-style-type: none"> 小学生になってからの移行先の情報が少ない。 イベント以外で小学生の利用者さまとの交流の場がない。 放課後等デイサービスの枠が埋まっていて、卒業後継続して利用することが出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部の利用者さまから伺った他事業所や学校の情報を教室内でまとめ、児童発達支援の利用者さまが閲覧出来るようにする。 放課後等デイサービス等移行先の情報を収集する。
3	細かい情報共有やお子さまそれぞれの方針の詳細が統一されていない	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議の開催が少ない。 面談や教室の会議で決まったことについて最後まで追うことが出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回ケース会議を実施することで、それぞれのお子さまの様子を細かく共有する。 目標や対応方法を検討した際に、いつまでやるのか等を確認し、継続的な支援が出来るようにしていく。